

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	滝村 敏道 内線 7210
小施策	16-1	土地利用に関する計画の策定・見直し	評価 シート 作成者	旭 広行 内線 7211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・持続可能な土地利用を推進するため、国土利用計画盛岡市計画を踏まえ、総合的で計画的な市土の利用を継続する必要がある。 ・都市計画(土地利用、道路・公園、下水道、市街地開発事業等)については、都市計画マスタープランに即して、諸施策を総合的かつ体系的に展開していく必要がある。 ・無秩序な市街地の拡大を防ぎ、計画的なまちづくりを進める必要があるため、区域区分及び地域地区の見直しに取り組んでいく必要がある。	藩政時代から形成された既成市街地の充実と新市街地の形成による機能的で活力あるコンパクトなまちづくりを推進するとともに、これら市街地を取り囲む農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう、総合的で計画的な土地利用を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	計画的に土地利用される。 市街化区域についてはコンパクトなまちが形成される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移			実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	
都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合 (市域における都市計画区域の割合)	%	→	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性 ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討 ★ 人口減少、少子化、高齢化等の社会構造の変化に対応したコンパクトで持続可能なまちづくりに資するため立地適正化計画を策定し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進する。 ☆1 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で計画的な土地利用を進める。
当初値 (H25) 50.3	R1目標値 50.3	R6目標値 50.3	・目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。	・関連する上位計画や制度等の適切な運用 ・関係施策や計画における相互連携による調整	
			問題点	問題の要因分析	
・将来における生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持			・人口減少、少子化、高齢化の進展、社会資本の老朽化等		
農用地として保全し土地利用する割合 (市域における農用地区域の割合)	%	→	成果点	成果の要因分析	☆1 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で計画的な土地利用を進める。
当初値 (H25) 8.4	R1目標値 8.4	R6目標値 8.4	・目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。	・関連する上位計画や制度等の適切な運用 ・関係施策や計画における相互連携による調整	
			問題点	問題の要因分析	
・将来における農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持			・人口減少、少子高齢化の進展、社会資本の老朽化等		
森林として保全し土地利用する割合 (市域における森林区域の割合)	%	→	成果点	成果の要因分析	☆1 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で計画的な土地利用を進める。
当初値 (H25) 73.2	R1目標値 73.2	R6目標値 73.2	・目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。	・関連する上位計画や制度等の適切な運用 ・関係施策や計画における相互連携による調整	
			問題点	問題の要因分析	
・将来における森林資源の保全維持管理			・人口減少、少子高齢化の進展等		